

頑張れ!  
ルーキー

rookie FIGHT!!



会長 足立進一さん

## 芝桜公園をつくる会

長崎県島原市

### 全国から受けた支援への感謝をこめて、被災地を芝桜の名所に。

1月16日の朝。島原半島の中央にそびえる雲仙普賢岳には、例年にない寒波の影響で、年末からの積雪がそのまま残っていました。その普賢岳のふもと、島原市折橋地区の砂防ダムには、120名を超える島原市民のみなさんが、人の拳から頭ほどの大きさの石を手作業で掘り出しています。今日は「芝桜公園をつくる会」の月に一度の作業の日。会長の足立さんにお話をうかがいました。

「ここはちょうど第四小学校折橋分校があったところで、人もたくさん住んでいました。ところが10年前の普賢岳の噴火で多くの方が犠牲となり、ここは土砂とコンクリートで固められた恐ろしい場所になってしまいました。誰も寄りつかなくなりました。そこでなんとかみんなの力で、この場所を花の咲く公園にできないかと思ったのがはじまりです。そして災害時に全国からいただいた心温まる多くの支援に対する感謝の気持ちを、この場所を花でいっぱいの公園にすることで表わしたい。私たちは元気になりましたということ、全国のみなさんにお伝えしたいんです」。

それでもはじめはなかなか理解が得られず大変だったのですが、次第に多くの方に協力していただくようになり、今ではこうして毎回100名以上のボランティアの方が集まって来られるそうです。

「いまここで苗を植えている子どもたちが大人になったときに、ここは自分たちでつくったふるさとなんだと自慢できるすばらしい場所になっていると思います。地元の建設業の方が無償で重機を出してくれたり、温泉旅館組合からおにぎりの差し入れをいただいたり、いろいろなかたちで、みんなで協力しあってつくって

います。まずは来年島原で開催予定のジオパーク国際ユネスコ会議までに9万株の芝桜を植える計画です。最終的には30万株を植えたいですね。そしたら全国からたくさんの方がこの場所に来てくれますよ」。

普賢岳の噴火によって広大な荒れ地となった場所で、ひとつひとつ石をとりのぞき、花の苗を植えていく地道な作業はこれからも続いていきます。しかし、みんなで声を掛け合うみなさんの表情はとても爽やかで、ふるさとの明るい未来を見つめているようでした。

